

管内黒毛和牛繁殖農場の牛白血病清浄化に向けた取り組み

福島県中央家畜保健衛生所

○ 星陽子 白田聡美

管内の黒毛和牛繁殖農場で、短期間に牛白血病ウイルス (BLV) 抗体陽性率の大幅低減に成功した事例を報告する。A農場は成牛用パドック併設フリーバーン、子牛房、分娩房で牛舎を構成し、BLV抗体陽性牛(以下、陽性牛)を含む繁殖雌牛37頭を飼養。公共牧場の陽性牛牧区を活用したBLV感染拡大防止を図っていたが、原発事故に伴う放牧中止により農場は陽性牛混在で通年パドック飼養。BLVまん延を懸念し、平成27年秋に全頭検査を実施、陽性率は70.3%(26/37頭)。家保指導のもと、防虫ネット設置、子牛のもらい乳阻止と早期離乳、計画的淘汰と自家産後継牛確保による早期更新、分離飼養の対策開始。平成28年の検査で陽性率55%(22/40頭)に低減したが、陽性牛産子の一部陽性(4/10頭)、夏分娩陰性牛の陽転(2頭)が判明。対策強化のため、分娩房の陰性・陽性を明確に区分けし、境界に可動式防虫ネットを設置。また、カーフペンを新設、陽性牛産子の早期母子分離及び人工哺乳を開始。加えて平成29年4月から近隣肥育農場へ陽性牛の相対出荷を開始し、清浄化は加速、平成29年秋の検査で陽性率6.6%(2/30頭)。陽性牛は平成30年2月に出荷完了し、平成30年5月の検査で繁殖雌牛32頭全頭の陰性を確認、陽性牛産子出荷後の今秋に最終検査を予定。今後は当該農場をモデルケースとし、地域のBLV清浄化へ向け成果の波及に努めたい。